令和6年度 南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和7年3月26日（水）午後2時00分から午後2時50分まで
会場	南区役所4階 講堂
出席者	<p>南区自治協議会委員：23名（欠席7名）</p> <p>教育委員：欠席</p> <p>事務局：教育総務課長、学校支援課地域クラブ活動推進室長 白根地区公民館長、白根図書館長 南区教育支援センター所長、指導主事、主任</p> <p>南区役所：区長</p> <p>市議員：2名（南区選出市議会議員）</p> <p>傍聴者：1名</p>
議事	1 開会
司会	<p>これより、令和6年度南区教育ミーティングを開会いたします。</p> <p>本日の進行を務めます南区教育支援センターの小菅と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>皆様、本日は大変ご多用の中、自治協議会前の貴重なお時間をいただきまして、本当にありがとうございます。本会議は公開の会議ですので、記録を作成するために録音させていただくことを了承いただきたいと思います。</p> <p>なお、本日の会議概要につきましては、後日、教育委員会のホームページに掲載させていただきます。また、このミーティングの後、午後3時から自治協議会がございますので、ミーティング終了の目安を午後2時50分とさせていただきます。</p> <p>本日、教育総務課、学校支援課からの施策の説明の後、質疑応答の時間を設けます。時間に限りがありますので、この場でご意見が伺えなかった方については、お手元に配付しましたアンケートにご記入をお願いいたします。</p>
議事	<p>2 教育委員会事務局説明</p> <p>（1）新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について</p> <p>（2）中学生の他の地域クラブ活動推進方針</p>
司会	<p>それでは、事務局より、新潟市教育基本振興計画～にいがた学びのコンパス～について説明いたします。</p>
教育総務課	<p>皆さんこんにちは。新潟市教育委員会教育総務課長の渡辺と申します。本日は、貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございます。私からは、このたび新たに策定いたしました新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～につきましてご説明させていただきたいと思います。</p> <p>はじめに、本市では平成18年に現行の新潟市教育ビジョンを策定い</p>

たしました。こちらは基本目標を学校教育、生涯学習、教育行政の視点からお示ししまして、目指す方向性につきましても三つの視点でお示しをしているところでございます。また、次代の新潟を支え、世界に羽ばたく心豊かな子どもを育み、市民が生涯を通じて学び、育つ社会づくりのための教育の方向性とあり方を明確にしたところでございます。特に本市教育の大きなテーマといたしまして、学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくりを掲げ、学校と地域が協働する取組を進めてきたほか、本市の強みでございます農業と文化、子育てなどとも連携しながら、本市の特色ある教育を進めてきたところです。

これまでの取組の成果につきまして、市民の皆様の声を知りたいということで、昨年度はアンケートを実施いたしました。中でも評価を頂いているところが情報教育の充実、ICTを活用した教育の推進、保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進、地域とともにある学校づくりの推進の順番となっています。一方、取組があまり進んでいないというお声をいただいたのが、教職員への支援体制の充実、教育関連施設の整備充実、家庭教育、子育て支援の充実という結果になっております。同時に、子どもたちからも、自由記載ということでアンケートを実施いたしました。回答が多い、ワードが多いほど文字が大きくなっているものがございます。ご覧のように、設問1、あなたが将来のために学びたいことは何ですかということなのですが、各学校、各学年ともに英語というものが真ん中にあります。ほかにも、例えばコミュニケーションというところもあります。こういったことから、英語力を高めるといったところ、あとはコミュニケーション能力を高めるといったことが我々としていたしましても必要なのではないかと考えております。

設問2です。あなたが幸せに過ごすために、あなたはどのような力を身に付けるとよいですかということですが、こちらはどの学年でも思いやりというワードがあります。このようなことから、今後も心の教育を大切にしていくことが大事であると感じております。

設問3、現在もしくは将来、あなたが地域や社会のために貢献したいことは何ですかとあります。いろいろとございますけれども、ボランティアというような言葉が挙がっております。改めまして、地域との絆を深め、地域への愛着、誇りを醸成していくということが大切であると考えております。

最後です。あなたが安心して過ごすことができる学校はどのようなところですか。真ん中にありますように、いじめがないという言葉、こちらがどの学校でも挙がっております。このような結果からも、だれもが安心して過ごすことができる学校づくりが必要であると考えております。

このように、市民の皆様、子どもたちの声、教育ミーティングでも皆

様から頂きましたお声も参考としながら、このたび計画を策定したところでございます。その計画の内容でございます。まず1番目です。策定趣旨、位置付け、構成というところですが、先ほど申し上げましたように、本市では平成18年に今の教育ビジョンというものを策定いたしまして、いろいろな施策を展開してきたところです。しかしながら、少子高齢化の加速、グローバル化の進展、そういった社会を取り巻く状況というものが大きく変化してきております。これまでの成果や課題といったものを踏まえまして、新たに計画を作ることが必要であろうということで策定をしていくということです。

計画の期間が令和7年度から8年間となっております。構成ですが、基本構想では、本市の教育が目指す人間像、基本計画では基本的な方向性、実施計画では基本計画を具現化する各種事業を記載しております。右側の全国的な動きといたしましては、グローバル化の進展であったり、最近いわれているSociety 5.0到来といったところが、教育を取り巻く環境というものがさまざまに変わってきているところがございます。国におきましても第4期の教育振興基本計画を策定して、教育のあり方を示しております。そういった中で、新たな計画におきましては、本市の強みというものをまずは確認させていただいたところです。

「さまざまな困難を乗り越える力」、「充実した地域の力」、「人材輩出の下地」など、本市の強みというものを踏まえるということと、真ん中にありますように、主な成果や課題というものを踏まえております。課題の部分でございます。具体的な内容といたしましては、将来の夢や目標をもつこどもの割合が残念ながら減少傾向となっております。生涯学習ボランティアの高齢化や固定化、不登校児童生徒の増加などが課題として挙げられております。教育に係る課題というものが多様化、複雑化している状況でございます。

そのような中、一番下にありますように、我々といたしましては二つのコンセプトを掲げております。一つ目が、「生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育」。二つ目が、「誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育」。この二つをコンセプトに、真ん中にありますが、「しなやかに 世界と未来を 創る人」という本市の教育が目指す人間像を目標として設定させていただいたところでございます。「しなやか」というのは柔軟性という意味なのですが、我々としましては、粘り強さ、たくましさ、そういった意味も含まれていると考えておりますし、「世界」というのはグローバルな世界だけではなく、自分がかかわる身近な地域社会を表しております。既成概念にとらわれず、主体性と挑戦する気概を持ち、新たな価値を創造しながらしなやかに世界と未来を創り出していく

	<p>ど、日本や諸外国の歴史や文化等に対する理解を深め、諸外国の人々と互いに信頼関係を築けるような教育を推進してまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして、基本方針Ⅲです。「地域との絆を深め、郷土に誇りと愛着をもって社会に貢献する人づくり」では、地域課題の解決につながる実践的な学びなどを通して、郷土の誇りや貢献意欲を醸成してまいります。</p> <p>基本施策は三つです。基本施策9では、ネットワークづくりにより社会の変化に応じた教育活動を改善するほか、豊かな体験活動や多様な学習機会の提供を行うとともに、基本施策10では、本市の特徴である農業をはじめ歴史や文化等の本市の魅力に気付き、ふるさとへの誇りを培う取組を進めてまいります。</p> <p>基本施策11では、子育て中の保護者も安心して学べる機会などを提供するほか、悩みを共有できる仲間づくりなどの取組を進めてまいります。例えば基本施策9では、地域とともにある学校づくり推進事業を実施いたしまして、学校と地域が連携してこどもの学びと成長を支えてまいります。基本施策11では、ブックスタート事業など、乳幼児期からの家庭での読書習慣を形成するために、図書館と保育施設などが連携し、発達段階に応じた効果的な取組を進めてまいります。</p> <p>最後の四つ目になります。基本方針Ⅳです。「多様な学びを支える教育環境の整備・充実」では、安心して学びに向かうことができる教育環境を整備するほか、教育関係職員が専門性を高め、その力を発揮できる体制整備を支援してまいります。</p> <p>基本施策12では、教育機会の確保に努めるほか、中学生が継続してスポーツ活動などに親しめる環境整備を進めるとともに、基本施策13では、教育DX環境整備事業などを実施し、児童生徒が学びのコミュニケーションツールとしてICT機器を活用できる環境整備、教職員研修を充実してまいります。</p> <p>基本施策14では、多忙化解消対策の推進など、市民に信頼される教職員を育成するとともに、教職員がいきいきと子どもたちと向き合うため、保護者や地域が一体となって教員の働き方改革を推進してまいります。</p> <p>以上が、新潟市教育振興基本計画の主な概要となります。この計画を本市の学びのコンパスといたしまして、教育を通じて市民の皆様が豊かで幸せな人生が送れる社会を目指し、各種事業、各種施策を展開してまいりたいと考えております。</p>
司 会	引き続き事務局より、中学生のための地域クラブ推進方針について説明いたします。

<p>学校支援課</p>	<p>皆さんこんにちは。学校支援課の藤田と申します。私からは、中学生のための地域クラブ活動推進方針についてご説明いたします。</p> <p>資料は、お手元の左上がホチキスで留めてある資料です。この推進方針は、将来にわたり子どもたちがスポーツ、文化、芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に向けた本市における基本的な方針とスケジュールなどについてまとめています。時間の都合がありますので、特に重要なところのみ説明させていただきます。</p> <p>2ページから4ページには、策定の背景が記載されています。後ほどご覧ください。</p> <p>5ページ以降は具体的な取組を記載しました。</p> <p>6ページ(3)実施主体をご覧ください。タブレット端末やスマートフォンからクラブを検索できる団体リストには、現時点で約150クラブの情報が掲載されています。部活動に設置されていた活動だけでなく、多様なクラブの情報が掲載されています。地域クラブ活動の体験会については来年度も主に小学生、中学生とその保護者を対象として各区での開催を予定しています。今年度は、出展するクラブの種目数や来場される方の人数にばらつきがあるといった課題もありましたので、周知方法を工夫したり内容の充実を図ったりして、さらに有意義な体験会となるよう準備を進めていきます。</p> <p>(4)指導者についてです。指導者リストは新潟県とも連携しています。現在の登録者数、新潟市と新潟県のリストを合わせると55名です。指導者リストを見たクラブから問い合わせがあり紹介したところ、マッチングが図られた例もありました。</p> <p>7ページをご覧ください。(5)活動場所についてです。地域クラブが中学校施設を利用できるようにするため、市内すべての中学校の職員玄関、体育館玄関、武道場入口に地域クラブ活動用のキーボックスを設置しました。平日17時から19時、休日9時から19時までの地域クラブが中学校施設を利用できるよう準備を進めています。</p> <p>(6)地域クラブの設立支援についてです。今年度より、円滑なクラブの設立のため、市独自の補助金制度を創設しました。これまで多くのクラブから申請があり、補助金を交付しています。クラブからは、指導者謝金に対する支援はありがたい、補助金があることでクラブを立ち上げやすいという声がありました。来年度も同様の補助を行います。</p> <p>8ページ、9ページには、生徒、地域、学校にとって期待される効果をまとめました。</p> <p>10ページには大まかなスケジュールが記載されています。この推進法人は記載されていませんが、来年度、コーディネーターを学校支援課内に配置し、クラブ設立の支援、子どもへの支援を充実させていきます。現在、スポーツ庁、文化庁では、有識者会議をしており、間もなく</p>
--------------	--

	<p>最終取りまとめが示される予定です。国の動向も注視しながら、推進方針については随時見直していきます。</p> <p>最後です。南区自治協議会から南区における中学生のための部活動と地域クラブに関する建議書を頂いております。関係部局、関係課と連携しながら五つの要望がありましたので、検討させていただきます。</p>
司 会	<p>3 質疑応答</p> <p>これより、質疑応答、意見交換に移ります。発言される際にはお名前をお聞かせください。今ほどの説明についてご質問、ご意見がある方は挙手願います。</p>
織田委員	<p>自治協第2部会に所属します織田と申します。</p> <p>中学生のための地域クラブ活動推進のご説明を受けて質問なのですが、10ページにスケジュールがあります。私は白根北中学校の学区に住んでおります。この自治協議会でも何度も南区内の中学校の部活動が果たして地域クラブできちんと受け皿が用意できているのだろうか。受け皿がないと、中学生になって活動したくても自分の中学校、もしくは近隣に活動する場所がないということになってしまうので、それは避けたいという話をしてきました。南区の現状を見ますと、推進室のほうに挙がっている地域クラブのリストを見ますと、17団体の登録があり、ほとんどのスポーツ系の種目については地域クラブが立ち上がって活動を始めているように見えます。ただ、文化系にはそういうものが少なく、イラストのみです。吹奏楽に親しんでいる生徒もたくさんいると聞いていましたので、吹奏楽はどうなのかなと心配しておりました。南区内の中学校の中で吹奏楽部があるのは4校で、そのうち2校は令和7年度4月以降も1年生も部活動として受け入れる体制です。あとの2校は1年生の入部は認めないという提示がされました。そこで心配になって、当該の2校について、1年生をどうやったら2年生、3年生の先輩と一緒に活動できるかを考えてきました。1校は、保護者会を中心に組織を立ち上げて、部活動を2年生、3年生の指導と一緒に、同じ顧問の先生から1年生もご指導いただけるということになりました。もう1校についても、急いで準備をして、地域クラブとしての登録はまだなのですが、そういう形で、地域の人たちの見守りを何とか立ち上げて、新1年生も一緒に見ていただくように話を進めているところで、</p> <p>現状、解決した学校も含め、令和8年の夏ごろまでの活動、3年生が</p>

引退するまではどうも顧問の先生が面倒を見てくださるそうです。その先なのです。その先がなかなか継続して指導いただける方針が今のところそういううれしいお話はなく、そのあとどうするのかなと非常に不安になっています。ですので、私たちは白根北中の校区にいまして、令和8年の9月以降、夏以降も吹奏楽部の活動が続けられるように、何とか外部からの指導者を探して、今度こそ地域クラブとして登録してやっていこうと考えています。そこでこの10ページのスケジュールです。補助金等の交付、実施予定の矢印があって、令和7年度で終わったりしませんよね。この先がすごく、この用紙を頂いたときに非常に心配になりました。むしろ令和8年に入ってからが、どこのクラブも心配が多いのではないかと思います。現に私たちの考えている施策についてもそうです。令和8年の後半から指導者の謝金が必要になります。ですので、ぜひ補助金等の交付はその先も続けていただけますようお願いしたいと考えています。

もう1点、中学校の施設利用についてです。ジュニア枠として、平日の5時から7時、休日の9時から7時は中学生が使えるようにご配慮いただいて、キーボックスを設けるという方針が出ました。しかし、各中学校にお話を聞きに行きますと、どうもそれがまだ半信半疑で、そのやり方で果たして、学校内に教職員がいなくて地域の人だけで学校施設を利用することは本当に可能なのだろうか。体育館や柔道場みたいな施設ならいざ知らず、音楽室とか、美術室とか、そういったところを使わせていただくには、なかなかまだまだ心配が多いものですので、まだそういう要望がっていないのだと思うのですけれども、併せてキーボックスをつけるというときに、そういうところも特別教室の利用もできるようなご配慮をぜひ進めていただいて、中学校のほうにも安心してお貸しいただけるように努めていただきたいと思います。

以上2点です。

学校支援課

いつもありがとうございます。先日は電話にて相談をいただき、ありがとうございます。

1点目の令和8年度以降のサポートについてです。10ページのスケジュールのところに、令和6と令和7のところに補助金等の交付と記載しています。この補助金は、円滑なクラブの設立に向けたということで記載してあります。ご指摘のとおり、設立されたあと、順調に学校クラブが運営していくための、今度は運営のための支援というものもご指摘のとおり必要なのだなと感じています。状況等をこちらでも把握しながら、どのような支援が適しているのか、どのような支援ができるのかということについて検討をさせていただきます。

2点目です。中学校施設の利用についてです。体育館や武道場だけでなく、音楽室等校舎内の利用についてですが、令和5年度から市内のい

	<p>くつかの学校で、音楽室等の利用についてもどのようにやったらいいのかということで、実証事業も行っています。実際に吹奏楽のクラブが学校の鍵も開けて、音楽室も使いながら、特別教室等も使いながら、クラブ活動をやっているという実績があります。各学校によって動線や使い方等はまちまちですので、クラブと学校等で使用のルール等をしっかりと確認しながら同意書を交わして、現在、地域のクラブが校舎を使って活動させてもっています。今のところ、令和5年度からそういったことをやっていますが、大きなトラブルが起きたといった報告は受けていません。今、順調に進んでいる状況です。</p>
久保委員	<p>自治協議会副会長の久保と申します。</p> <p>先ほどの説明の中で、最後、団体等の設立を支援するコーディネーターという言葉が出てきましたけれども、これについて、この推進方針の中には一つも出ておりません。私どもも建議書の中に、大きな課題、要望として団体の設立ですとか受け皿をどのように作っていくか。それを待っている人がたくさんいるので、何とかしてほしいということがあると思うのですけれども、今まさに言われたコーディネーターというものがそういう役割を持っていただけるのかなと思って聞いていたのですけれども、ただ一言の説明しかなかったもので、このコーディネーターについて、例えばこのコーディネーターというのは区につくのかなど、もっと詳しくおしえていただきたいと思います。</p>
学校支援課	<p>ありがとうございます。先ほど説明したクラブ設立のコーディネーターは教育委員会の学校支援課に配置します。人数は3名を予定しております。主な業務の内容ですが、地域クラブ活動の環境整備を推進するために、クラブ設立の可能性のある関係者を把握し、関係団体、連盟や協会や学校等との連絡調整を実施して、クラブの立ち上げを促進するような仕事になっています。</p>
久保委員	<p>例えば、今の説明の中に3名を予定していますとありましたけれども、新潟市内でかなり多くのクラブがありますし、これから増えるというところで、織田委員からも話がありましたけれども、3名で迅速に対応できるのか。期限が限られていますので、その中で対応ができなかった場合は増員ですとか、令和8年までとありますし、その後のこともありますけれども、その辺は柔軟に考えることもあるのでしょうか。</p>
学校支援課	<p>ありがとうございます。コーディネーターの配置については、令和7年度、来年度は3名の配置を予定しています。現在、地域クラブ活動推進室の人員はかなり少ないのですが、増員を予定しておりますので、コーディネーターだけではなくて、推進室のメンバーも一丸となって対応していきたいと思います。</p>
関川委員	<p>新飯田コミュニティ協議会の関川です。</p>

	<p>基本計画のことについて確認したいことがあります。基本施策1から14までありまして、これから具体的にそれぞれの施策、予算を作りながら進めていこうと思いますが、私は、障がいのある子どもたちの、いわゆる特別支援というものに関心がありまして、この施策の中に文言としては出ていないのですけれども、どこかに該当して特別支援という形でも一緒にやっていくことだと思えるのですけれども、基本計画の中にそういった文言があっても、特別支援または特別支援のPRか何かを作られて重点的にやるということによってやっておられるようですが、特に基本形の中にはその文言は出てこないというのは何かあるのでしょうか。特別支援についても引き続き一生懸命やっていただきたいという気持ちを込めて、お願いしたいと思います。</p>
教育総務課	<p>ありがとうございます。我々教育委員会といたしましても、特別支援教育、これは大事なことだと思っております。今回の資料の中にもありますように、基本施策6のところに、自分らしく学び成長する特別支援教育を推進しますということでコメントを入れさせていただいておりますが、こちらの資料が概要版ということで、基本計画の本冊の方にはきちんと記載させていただいております。我々教育委員会といたしましても特別支援教育は力を入れておりまして、令和5年度ですと、特別支援教育を所管する専門の課を立ち上げております。今、お話がありましたように、学校の中での配慮が必要な子どもへの居場所や支援体制といったところも大切にしていきたいと思っております。あとは、小学校と中学校とで同じような支援ができるように、支援をする計画をシステム化しております。例えばどのような先生やこういった方が見ても同じような支援ができるようなベースをしっかりと作り上げたいと思っておりますし、学校以外の関係機関とも連携が取れたらと思っております。ご意見ありがとうございます。</p>
上杉委員	<p>民生委員・児童委員をしております上杉と申します。</p> <p>今の特別支援学級の件について追加でお聞きしたいのですが、基本施策6に、誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育の推進ということで、ここに大きく掲げられているということは理解できております。ただ、現在、私が関わっている学校では全校児童の1割が特別支援学級の生徒数になっています。教職員の数は増えず、支援員の先生で対応していくとなると、学年にも非常に幅がありすぎて、それは学校の教員の負担になるのではないかとCS会議のときに感じたのです。高学年になってから発達障がいと認められて支援学級にくる子どもも含めると、入学時の1年生から6年生までが支援学級、全校児童の1割が支援学級の生徒となったときに、やはり学校の教員の負担は計り知れ</p>

ません。そこに対する教育委員会からの何らかのアプローチがあってもよいのではないかと感じました。

最近の保護者は、通級と支援学級の両方の授業を受けて、その子に合った教育をしていきますという説明が行き届いているせいか、保護者は支援学級に入ることに賛成してくれる方が多くなってきたというのは非常によいことだとは思うのですけれども、ただ、学校の体制が全部整わないのに、支援学級に入る児童ばかりが増えていって果たしてよいのだろうかという思いがあります。そういったフォローも含めて、いろいろな学校にも目を配ってほしいと思います。

もう一つ、基本施策13でICTを使った環境の整備・充実というところなのですが、今、中学校の不登校児のほとんどが意外と発達障がいの要素をもって不登校になっている子もいれば、どうしてもタブレットないスマホをやりすぎて朝起きられなくなって、生活の循環がうまくとれなくなって、1回休むとどんどん休んでいく。どんどん朝が起きられなくて、保護者に対しても教育はしているらしいのです。こどもが言うことを聞いてくれないという、このままでいくと依存症になるというところまで伝えても、やはりこどもは依存症から抜け出ることがどんどんできなくなっていっているという、この現状を踏まえて、その部分も非常に難しい問題でしょうが、タブレットを使つての教育も慎重に進めていただかないといけないのではないかと。保護者の方の意見としては、自分が寝てしまったあと、こどもを監視することはできないと。こどもは親が寝てから夜中ずっとやっているということらしいので、その難しさをどう保護者に説明していったらいいのかなというのが今の悩みです。

教育総務課

ありがとうございます。最初の特別支援の関係でございますけれども、先ほど申し上げましたように、個別の支援計画というものを、例えばシステム化を図ることで、先生方への負担も減らしていきたいというところもございます。あとは支援員の方の体制もしっかりと考えていく必要があると思っております。先生方の場合は負担というところもあると思うのですが、先生方の特別支援に係る知識や経験値というものを、検証を通して充実させていくことも方策の一つと思っております。さまざまな取組を通じた特別支援です。先ほど1対1というお話もありました。

	<p>少し違うかもしれませんが、医療的ケアが必要な子に対しても、我々といたしましても、しっかり看護師の方であったり、そういったところを国の方も力も入れておりました、施策を十分に活用しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>二つ目のICTと不登校の関係でございます。いわゆるタブレットというものは、例えば不登校と直接的なものではないのかもしれませんが、それを使うことよって、一緒の時間に授業が受けられるといったメリットもあると思いますが、今、お話がありましたように、タブレットで自分の世界に入ってしまうというデメリットもございます。タブレットの使用というものは気を付けていかないといけない部分でございますので、使うは使うのですけれども、それを生かして、自分がどのように成長できるかというところの一つのツールにできたらと思っております。不登校の関係につきましてはタブレットの関係もありますが、我々といたしましては、例えばスクールカウンセラーを増員したり、学校の中での居場所ということで、スペシャルサポートルームというものを各小学校にも増設したりして、教室には行けないのだけれども、学校のどこかであれば行けるといようなきっかけづくりというところも必要だと思っております。そういったいろいろなところを考えながら教育施策を進めていきたいと考えております。ありがとうございます。</p>
司 会	<p>お時間が迫ってまいりました。質問のある方はいらっしゃると思えますけれども、ご意見、ご質問のある方はお手元のアンケート用紙に書いていただければと思います。</p>
議 事	<p>4 閉 会</p>
司 会	<p>以上をもちまして、令和6年度南区教育ミーティングを閉会いたします。</p> <p>アンケートですけれども、本日の自治協議会終了するまでにご記入いただいて、入口の回収箱に入れていただければと思います。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>